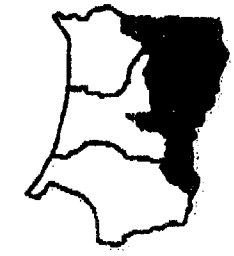
ニュースの風

東から

二ツ井・藤里地域



里山生かして地域づくりを

全国木偏サミット

森林の再生など訴え

NGO・NPO関係者　相互連携の強化確認

第3回全国木偏のNGO・NPOサミットは、20日から21日の日程で二ツ井藤里地区で開かれ、参加者は里山や森林、林業などを生かした地域づくりを目指して情報交換などを行うとともに、全国のネットワークづくりを進めていくことを確認した。

二ツ井藤里に集う

主催は杉や檜を守る団体や環境保護団体などで組織する実行委員会で、能代山本では能代市二ツ井町のモクネット事務局（加藤良光代表）が実行委員会の一員となっている。サミットの1回目は広島、2回目は東京で開かれた。

サミットの目的は全国各地の里山、森林、林業、木材、住宅など木偏に関わるNPO、NGOの情報交換の場にするとともに、世論の形成、行政への働きかけなど効率のよいネットワークを形成するためで、今回は約30人が参加。約1割は県外からの参加だった。

参加者は初日は能代市内の木材工場などを見学、2日目は市二ツ井町の檜ふるさとの家でサミットを開き、機関誌は藤里町の白神山地や市二ツ井町のきみまち坂、仁鮒大沢スギ植物群落保護林などを視察した。

このうち2日目のサミットでは藤岡紀夫ウッドワークの関係者が「森林を生かした地域づくり活動」と題して講演、秋田森林組合の渡辺敏一さんが「林業からの多くの」、斎藤栄作さんが「世界遺産白神山地の紹介」、加藤代表が「モクネットのこれから」をテーマに報告した。

渡辺さんは杉の植田被害が急増していることを指摘し、「製材会社は杉の"ドロ"の部分だけを持っていく。残りのうち20%は虫が入っており、チップ材となってしまう」と疑問視している。斎藤さんは白神山地の自然の貴重さなどを訴えた。加藤代表は里山の再生や中心市街地の街並みの景観づくりなどに持論を続いた。

景観、自然などを優先に考えることの必要性を改めて感じていたが、森林などを生かした地域づくりのためネットワークを強化していくことなどを確認していた。

加藤代表は「今回は里山を中心にしたサミットとなったが、モクネットは今年度中に街並みづくりに関するフォーラムを開催することを予定している」と話していた。

里山を生かした暮らしなどについて意見交換した分サミット